

児童・生徒の現状・課題

前向きに学習に向かう生徒は多いが、個人差はある。自ら考えて挑戦し、学び続ける様子や、テストの結果から粘り強く学習を振り返ることに課題がある。また、話し合い活動の場で心理的な不安感があり、積極的に参加できない状況がある。

学び続ける力を育むための重点目標

○「Qubena(キュビナ)を活用」した個別最適な学びと、協働的な学びとして「話し合い活動」を共通のルールと安心感のもとで行えるように環境を整えていく。

具体的な手だて① Qubena の活用

「個別最適な学び」:自分のペースで進められ「わかる」という達成感を得て学びの土台を作らせる。教員が AI の学習ログを分析し、どこで躓いているか把握し、個別支援を行う。

具体的な手だて② 話し合い活動の充実

「協働的な学び」:話し合い活動で、共通のルールと安心感のもとで対話し、自分と異なる多様な考えに触れ思考を深めるさせるため、アンケートを実施し、生徒の意識変化を可視化し、次の指導に繋げる。

具体的な手だて③ MFS を意識した授業

「見通し M」学習内容を示し見通しを持たせ、前回の振り返りから本時に前向きに取り組ませる。「振り返り F」単元や 1 時間の中の振り返る場面から、問題解決の手立てやアドバイス、理解度進捗状況を自ら確認し修正して学習する。「選択 S」共に学習する仲間・場所・ツールなど自ら選択できる場面を持つ。キュビナを活用し、基礎基本の定着を計る。

校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫

- ・4 人のグループワーク:教員で 4 人グループを編成し、実践を相互見学し、発見とアドバイスなど各自の授業へ生かす。
- ・学習ログの活用:スプレッドシートを用いて日々の授業写真や使用したワークシート、一言メモを記録し、グループ内で実践を閲覧共有する。
- ・グループワークで得た成果を全教員で共有する場面をもつ。

児童生徒調査	昨年度 3月	目標(8月)	結果(1月)
①声の大きい人や一部の人のみで決まる。周りは合わせるだけ。	39.57 現2・3年	36.00 全校生徒	
②違う意見も「なぜ?」と聞き合い、お互いを尊重して話している。	25.13 現2・3年	30.00 全校生徒	

教員調査	1学期	目標(8月)	結果(1月)
①声の大きい人や一部の人のみで決まる。周りは合わせるだけ。			
②違う意見も「なぜ?」と聞き合い、お互いを尊重して話している。			

総括(5月) 昨年度末の生徒アンケートから「話し合い活動」で「一部の声の大きな人に支配されている・何を言ったらよいか分からない不安感・冷めた空気感」といった「心理的不安感」が顕在化した。「話し合い活動」で共通のルールを設定し環境を整え、心理的不安感を取り除いた「話し合い」への変容を目指す。4 人のグループワークを主にウェルビーイングな授業改革を進めていく。

総括(1月)

